

## 長谷川喜十郎について

明治維新によって日光東照宮は荒廃していましたが、人々の働き掛けにより修復保存され日本の伝統的な文化財として再び脚光を浴びました。大正4年には東照宮300年祭も挙行されました。このような時代背景の中で、近代日本の内外博覧会に日本の伝統文化の象徴として東照宮模型が出品され好評を博しました。

この模型の製作にあたったのが滑川の10代長谷川喜十郎でした。長谷川家は代々続く仏師の家系でした。10代喜十郎は昭和10年に亡くなるまで家業の傍ら生涯に、4基の日光東照宮模型や多くの神輿を製作しました。その腕前から「越中の左甚五郎」と称賛され、模型作品はその完成度から日本の象徴として国内はもとより米国の博覧会へも出品され、人々を魅了しました。その模型は本廟を再現して止まず、東照宮全体像を建築群として鳥瞰して鑑賞できる見事な出来映えで、東京大学でも永らく保管されていました。

今回は近郷近在に保存されている作品や資料を中心に喜十郎の生涯を紹介します。

展示作品は東照宮模型の一部や絵画、遺品、書簡、貴重な当時の新聞記事、11代喜十郎や弟子たちの作品等、初公開の資料を合わせて84点になります。東照宮に挑んだ喜十郎と弟子たちの世界を紹介します。



▲神農像 昭和10年



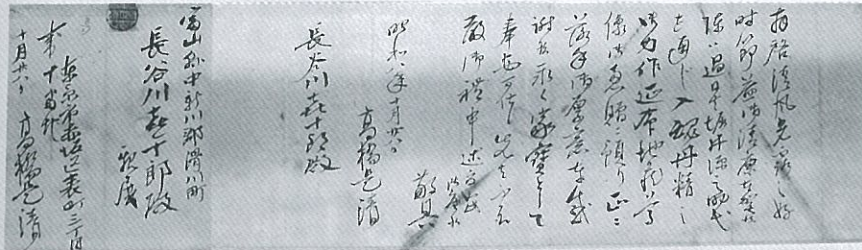
▲達磨大師図



▲海神像 昭和12年



▲高砂山屋台装飾 明治29年



▲お礼状（高橋は清氏から） 昭和8年

お礼状 高橋は清氏から  
 拝啓 清風光露之好  
 時節益御清康奉賀候  
 陳ハ過日は堀井源之助氏  
 を通じ入魂丹精之  
 御力作延命地蔵尊  
 像御惠贈ニ預り正に  
 落手御厚志奉感  
 謝候永く家寶として  
 奉安可仕候先は不取  
 敢御禮申す度如此  
 敬具 御座候  
 昭和八年十月廿八日  
 高橋は清  
 長谷川喜十郎 殿  
 富山県中新川郡滑川町  
 長谷川喜十郎殿  
 親展  
 東京市赤坂区表町三丁目  
 十番地北  
 十月廿八日 高橋は清

